

公益社団法人 私立大学情報教育協会
被服学・美術デザイングループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
開催要項

1. 開催趣旨

昨年の対話集会では、学力の3要素を高めるためにICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善、授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICTの活用、ICTによる外部評価モデルの必要性和仕組みについて意見交換しました。その結果、ICTを活用したアクティブ・ラーニングは進んでいるが、知識の活用や創造を目指す分野連携の取り組みは殆ど進んでいません。また、ICTを用いて授業内容を可視化し教員相互で理解し合う取り組みの必要性は認識されていますが、教学マネジメントを含めた全学的な取り組みは進んでいないことが判明しました。さらに、学修成果の質保証の取り組みとして、ICTによる外部評価モデルの新たな提案については、総論賛成の意見が多い一方、被服・美術デザイン分野では創造性の評価に適さないとの意見もあり、今後、各分野で実現に向けて詳細な議論を展開することになりました。

そこで、本年度は、創造性、独創性の能力を高め、社会に発信する力を向上させるICT活用授業の研究、ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の可能性と課題、教育の質保証の仕組みとしてICTを活用した外部評価モデルの可能性について議論を深めて意見交換したいと考えております。

2. 対話集会のねらい

本年度は、創造性、独創性の能力を高め、社会に発信する力を向上させるICT活用による授業改善を中心に、以下のような観点で意見を交換する対話集会を展開します。

- ① 学生の作品制作力の向上を目指して、創造力・独創力を高め、社会に発信する力を向上させるICT活用による共通プラットフォームの可能性について探求します。
- ② ネット上で学内および地域社会・企業などによる外部からの意見を組み入れたオープンな教育改善の仕組みについて実現の可能性を探求します。
- ③ 学修成果の質保証に向けたICTを活用した外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策について理解の共有を行います。

3. プログラム

- (1) 開催趣旨の説明
- (2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 被服学分野

「被服教育におけるICT活用の効果と評価について」

被服製作実習の知識理解の向上を図るため、LMSに被服製作の基礎知識・所作などの動画を掲載して、学修行動を把握することで、授業運営の評価・改善に役立てている取り組みを紹介する。

東京家政大学 服飾美術学科准教授 田中 早苗 氏

② 美術・デザイン分野

「学生作品の評価と振り返りを迅速化するICT活用の試みと提案」

課題作品の写真をスマホから作品DBにアップロードし、複数の教員及び学外の有識者による評価を通じて振り返りを行い、学びを発展させる取り組みについて展望を紹介する。

東京家政大学 造形表現学科准教授 宮本 真帆 氏

③ 被服学分野 美術・デザイン分野

「海外共有サイトを活用したインテリアプロダクト分野の作品制作実践力向上に向けた授業改善の試み」

学生が海外サイトを利用して、インテリアプロダクト分野の作品制作におけるプロセスを記録・公開し、可視化・共有化することで、学生一人ひとりのプレゼンテーション能力、制作実践力の向上につなげる取り組みを紹介する。

椋山女学園大学 生活科学部助教 山下 健 氏

(3) 意見交流

作品の独創性を高め社会に発信する力を向上させる ICT 活用授業の研究を中心に、実践事例や授業改善の提案について、参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有化と授業改善に向けた方策を探求します。また、ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善実現の可能性と課題、ICT を活用した外部評価モデルの仕組みについて、以下のテーマで意見交流をします。

- ① 作品の独創性を高め社会に発信する力を向上させる ICT 活用による授業改善の研究
- ② ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の可能性と課題
- ③ ICT を活用した外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：平成 30 年 12 月 16 日（日）13:30～17:00

6. **会場**：大妻女子大学（千代田キャンパス本館 G 棟 5 階 525 講義室）東京都千代田区三番町 12

<http://www.otsuma.ac.jp/about/facilities/chiyodacampus>

7. **定員**：100名（先着順で受け付けます）

8. **参加費**：無料

9. **参加にあたって**

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用」の 1 章 3.(2)(③学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル)、2 章(ICT を活用した教育改善モデルの考察：被服学分野、芸術学の美術・デザイン分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成 28 年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html>

<http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

10. **資料について**

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下の URL に掲載しますので資料をご覧ください。

<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. **その他**

話題提供と意見交換の様子（意見交換は背面からの遠景）を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。

また、意見交換による課題の整理は文章で本協会 Web サイトに掲載する予定にしております。

12. **参加申込について**

別紙の申込書に必要な事項とアンケートを記入の上、FAX 又はメールで 12 月 12 日(水)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
被服学・美術デザイングループグループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbshifuku@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報は、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
- ・データベース管理作業の外部委託の際は目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな ()

氏名: _____

大学名: _____

所属・役職: _____

E-Mail: _____

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入ください

- 先生が所属される学部・学科では、授業で学生の作品制作の独創性向上を図るために ICT を活用していますか。
 活用している 活用していない
- 学生制作物のコンセプトを適切にプレゼンテーションする表現力・発信力の向上について、ご意見をお聞かせ下さい。
 必要と思う 必要としない
- 「必要と思う」と答えられた先生に伺います。社会に発信する力を向上させる仕組みとして、ICT 活用による共通プラットフォームをネット上に設けることについて、ご意見をお聞かせ下さい。
 必要と思う 必要としない
- 教育改善の仕組みとして、学内外の関係者を交えてネット上のプラットフォームで意見交流する必要性について、お答え下さい。
 必要 不必要
- 「必要」と答えられた先生に伺います。どのようなレベルのプラットフォームが必要とお考えですか。
いずれかを選択いただきその上で意見交流する対象者にチェック印を付けてください。
 大学単独で構築 (教員 職員 学生 有識者 地域社会 企業)
 複数大学連携で構築 (教員 職員 学生 有識者 地域社会 企業)
 大学と地域社会で構築 (教員 職員 学生 有識者 企業 地域の団体)
- 私情協では、学修成果の質保証の仕組みとして、学生が制作した成果物を多面的に外部の関係者から意見を伺う、ICT を活用した外部評価モデルを提案しています。このような外部評価のニーズについてお考えをお聞かせ下さい。
(別紙の資料参照)
 必要 必要とは思わない